

# ダイコン「春風太」の 特徴と栽培導入について

J A 銚子

営農開発課

宮内 貞夫

## 1 産地の概要

銚子市は千葉県の最東端にあって、南東は太平洋に面し、西は香取郡の北総台地に接し、北は利根川を挟んで茨城県波崎町に対しており、総面積 85.11 km<sup>2</sup>、東西 16.2 km、南北 12.8 km で、三方を海で囲まれた外洋に面し、海洋性気候の影響を受け、年平均気温 15.0°C で、冬暖かく夏は涼しく積雪は少ない。降水量は 1,557.6 mm と農業経営

には恵まれた自然条件を備え、さらに首都圏から直線距離で 100 km 圏内に位置し、温暖な気候と大消費地に近く、立地条件を生かし、露地野菜を中心とした野菜産地が形成されている。

特にキャベツ・ダイコンは国の指定産地となっており、野菜の粗生産額は県内第 1 位であり、首都圏における生鮮野菜の供給基地として、重要な役割を果たしている。



## 2 ダイコン栽培の歴史

銚子におけるダイコン栽培は古く、明治初期頃で、自家用として漬物用が中心であった。その後、昭和 20 年代に一部行商用として栽培されていた。

春ダイコンについては、三交ダイコンを中心に約 100 ha ほどあった秋冬ダイコンに変わり、昭和 52 年より新時無系ダイコンのトンネル栽培が導入され、品質の良いものが出荷されるようになった。

トンネルダイコンは、11 月を中心に播種し、3 月出荷を中心としたもので、競合産地も少なく有利性が高かった。昭和 54 年に試作導入された天春ダイコンは 4 ha ほどであったが、好結果で終了したため、翌年には約 40 ha と急激な伸びを示し、60 年度の作付けは、天春ダイコンだけで 250 ha となり、日本一のトンネル春ダイコンの産地となった。

図 1 ダイコンの作付面積と販売額

表 1 銚子市の月別平均気象状況

(銚子气象台 1961~1990)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月	全年
平均気温(°C)	5.8	6.1	8.5	13.0	16.8	19.4	22.6	24.9	22.7	18.2	13.6	8.6	15.0
最高気温の平均(°C)	9.9	9.8	11.8	16.1	19.8	22.2	25.4	27.9	25.2	20.8	16.8	12.4	18.2
最低気温の平均(°C)	1.7	2.5	5.1	10.0	14.1	17.1	20.5	22.8	20.7	15.5	10.1	4.6	12.1
降水量(mm)	78.8	96.9	128.5	128.4	141.0	173.5	100.9	107.7	186.0	216.8	122.7	76.5	1,557.6
日照時間(h)	166.6	144.0	163.0	165.9	188.1	137.5	163.0	215.3	141.8	133.8	132.1	159.9	1,911.0

## 3 春ダイコン栽培と品種の変遷

銚子における春ダイコンの栽培は、主に西部地区を中心に作付けされ、海よりの温暖な地域ではほとんど栽培されていない。一般に銚子というところは、神



写真1 J A試験圃



写真2 収穫調査風景

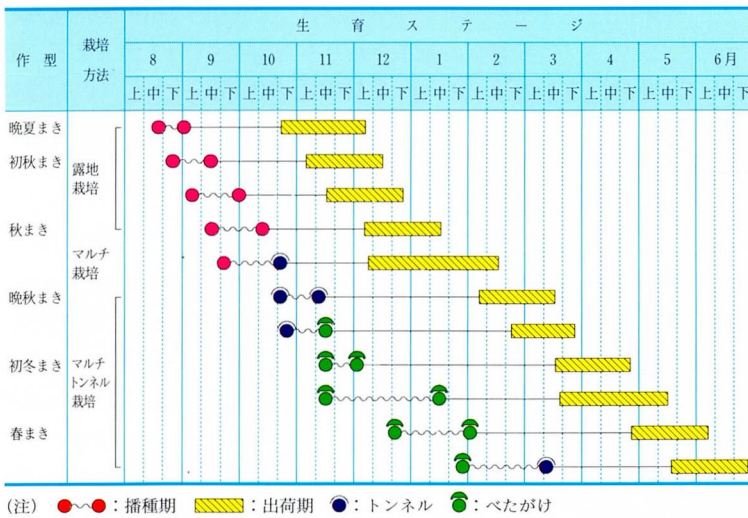


図2 銚子ダイコンの作型 (J A銚子)

奈川県の三浦半島と同様に、暖かい地域と思われがちであるが、海に近い東部地区と内陸部の西部地区では、厳寒期最大7°Cの温度差があり、冬春キャベツは凍害を受け、栽培が出来ないため春ダイコンの作付けが増反されてきた。

当時、天春ダイコンは品質・揃いとも優れ10年近く栽培されてきたが、消費者の青首系嗜好の高まりから、より青首の濃い品種に変わってきた。

この作型は、厳寒期の生育から春先の収穫と、非常に厳しい環境のなか肥培管理が難しく、生育差が大きいため、生産者は苦勞していた。そこで当時のダイコン部会を中心に、低温肥大に優れ揃いが良く抽苔の安定する青首ダイコンを模索する

ことになり、「天舞」続いて「天風」が選定され、栽培されるようになった。

#### 4 「春風太」の導入

銚子におけるダイコンの作付けは約700ha、その内トンネルダイコンは450ha程あり、トンネルダイコンの播種期は10月上旬から3月中旬まで、5か月間余りと長期間となっている。特に10月下旬から11月まきの作型が多く、300haを超える作付けがありトンネル春ダイコンが中心となっている。

J A銚子野菜連合会(会員数1,000戸)では、年間11の品種を奨励品種として指定している。

このうち、10月上旬から12月末までの3か月間、5品種を指定品種としているが、この間農家個々では10品種以上を栽培する人も少なくなかった。

11月まきを中心とした作型で、平成4~5年頃より葉の黄化現象が各地で多く発生するようになり、問題となっていた。これは、生育後期の1~2月に乾燥と極端な低温の影響などから、一時的に微量要素の吸収が阻害され、葉の黄化につながったものと考えられ、これには、品種による格差が大きいことも確認された。

また、10月中・下旬と12月中・下旬播種のトン



写真3 播種平成8年10月16日 調査平成9年2月6日

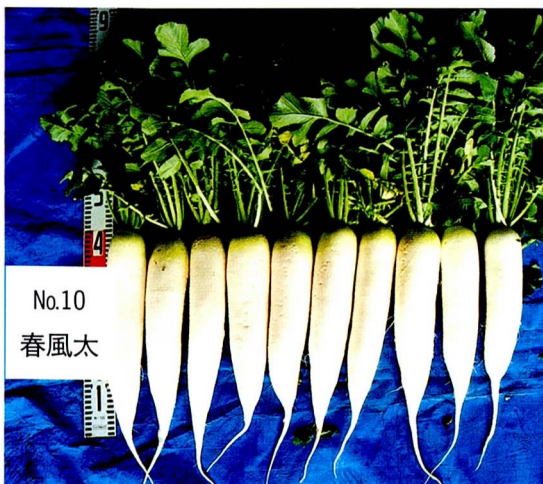


写真4 播種平成8年12月26日 調査平成9年4月9日

ネル春ダイコンでは、生育の不安定と寒害、抽苔等が問題となっていた。

そこで、毎年実施しているJA銚子の品種比較試験と、JA銚子野菜連合会本部役員及び関係機関の協力により、平成6年度に「春風太（当時SB7016）」を試作することになった。試作は、10月中・下旬から12月下旬まきの3作型を実施し（JA銚子試験圃）、結果は各作型とも安定し上位の成績となった。

#### 結果の概要

- ①青首が鮮明で、肌の外観がよい。
- ②尻詰まりはややあまいが揃いがよい。
- ③葉長短く、葉色が濃い。
- ④葉の黄化がない。



写真5 「さわやか大根」出荷風景

- ⑤肉質は密で、味がよい。
- ⑥抽苔は安定し、問題ない。
- ⑦根長は、37cm前後（各作型とも）

但し、葉柄が細いためか首部が弱く、降雨直後に播種すると、収穫時に抜きづらく無理をすると、葉部と根部とに分かれてしまう事がある。

## 5 今後の課題

「春風太」は、現在11月まきを中心に播種されていますが、10月中旬まきの早期トンネル栽培と、12月下旬まきの春ダイコンの作型で品質確認を行い、播種期を拡大することが確認されれば、年内まきのトンネルダイコンの品種が1品種に統一されるものと思われます。

現在栽培されているダイコンの品種は非常に多く、食味の良い青首ダイコンが消費者に好まれています。このため、新鮮で美味しいダイコンを期間通して出荷する必要があります。また、銚子では青首系春ダイコン450haを中心に作付けされています。以上のことから、作型別品種の統一と、環境に優しい低農薬栽培を確立することにより、トンネル春ダイコンの良さを消費者に十分PRし、産地化をますます維持発展させていく必要があると考えております。